

令和 8 年 6 月定例仙台市社会教育委員の会議 会議録

- 日 時 令和 8 年 6 月 5 日（金）10：00～12：00
- 場 所 仙台市役所上杉分庁舎 12 階教育局第 1 会議室
- 出席委員 阿部哲也委員、安藤直美委員、泉山靖人委員、大曾根学委員、齋藤愛委員、鈴木修委員、坪井和子委員、内藤良介委員、中山慎也委員、沼里理恵委員、朴賢淑委員、松本大委員、若生彩委員
- 事務局職員 庄子生涯学習部長、伊勢生涯学習支援センター長、小幡生涯学習課長、犬淵生涯学習課主幹、大泉生涯学習課企画係長、岡本生涯学習課施設係長、細川生涯学習課生涯学習係長、生涯学習課生涯学習係 金光寺主査、青沼主査、石垣主任、生涯学習課企画係 阿部主任、大山主事

○会議の概要

- 1 開会
- 2 挨拶（松本委員長）
- 3 協議事項

（1）今期会議のテーマについて

資料 2 に基づき、委員から提案内容について説明があった。委員を名簿順に 2 グループに分け、提案を踏まえた今期の協議テーマ候補について意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

〔意見等〕

●災害・防災文化について

・東日本大震災の発生から年月が経過し、震災を直接経験していない世代も増えていくことから、防災に関する記憶や教訓をどのように次世代へ継承していくかが重要な課題であるとの意見があった。また、長崎市では平和教育が地域に根付いており、こどもの頃から平和について意識する機会があることから、仙台市においても「災害・防災」について立ち止まって考える機会や、地域の中で学び続ける仕組みが必要ではないかとの意見があった。

・学校では様々な防災教育が実施されている一方で、大人が防災について学ぶ機会は限られているのではないかと。こどもだけでなく、地域住民や保護者、高齢者など幅広い世代を対象とした学びの機会を設けることが重要であるとの意見が出された。

・地震や津波だけでなく、豪雨災害や熊被害、停電など、時代の変化に伴う新たなリスクへの対応も必要であり、社会教育の視点から地域課題として捉えることが重要ではないかとの意見があった。

●地域コミュニティ・町内会活動について

・町内会や子ども会、PTA 等において担い手不足や加入率の低下が進んでおり、地域コミュニティの維持が大きな課題となっているとの意見があった。一方で、防災や防犯、見守り活動などを考えると、地域のつながりは依然として重要な役割を担っているとの認識が共有された。

・こどもを中心とした活動には保護者や地域住民が関わりやすく、世代を超えた交流

のきっかけにもなることから、地域づくりの有効な手法ではないかとの意見があった。こどもを起点とした地域活動のあり方について調査してはどうかとの提案もあった。

・地域活動が活発な事例も存在しており、そうした地域ではどのような工夫や仕組みにより参加を促進しているのかを調査し、他地域へ展開する視点が必要との意見があった。

●スポーツ・文化活動及び部活動の地域移行について

・部活動の地域移行が進められている中で、指導者の確保や活動場所、保護者の負担、経済的負担など多くの課題が存在しているとの意見があった。また、地域によって活動環境に差が生じる可能性についても懸念する意見が出された。

・スポーツだけでなく、吹奏楽など文化部活動についても同様の課題を抱えており、学校が担ってきた教育的な役割を地域でどのように補完していくかが課題ではないかとの意見があった。

・一方で、仙台市にはプロスポーツチームや文化団体など豊富な地域資源があることから、それらと連携した学びや体験活動の可能性について検討してはどうかとの意見が出された。

●デジタル化と社会教育について

・デジタル技術の活用が進む一方で、停電時などには利用できなくなることから、デジタルは万能ではなく、その利便性と限界の両方を理解することが重要との意見があった。

・デジタル技術の急速な進展により、こどもたちは日常的に ICT や SNS を活用している一方で、大人世代は十分に対応できていない場合もあるとの意見があった。そのため、こどものためだけでなく、大人自身がデジタルについて学び続ける必要があるとの意見が出された。

・社会教育施設や地域活動においても、オンラインやデジタル技術の活用を進める余地があるとの意見があった。一方で、対面による交流や地域のつながりの価値を見失わず、デジタルとリアルの双方を活かした取組が重要であるとの意見が出された。

・SNS や生成 AI など新しい技術への理解を深めることは、こどもたちを犯罪やトラブルから守るためにも重要であり、大人の学びのテーマとしても必要ではないかとの意見があった。

●外国にルーツを持つ住民との交流と学びの機会の充実について

・外国にルーツを持つ住民や留学生が増加する中、外国にルーツを持つ人々がどのような学びや支援を求めているのかを把握し、社会教育がその受け皿としてどのような役割を果たせるかについて意見が出された。

・また、日本人と外国人がともに学び交流する機会の充実や、外国にルーツを持つ人々を支援の対象としてだけでなく地域活動の担い手として捉える視点も重要であるとの意見があった。

●祭り・地域文化の継承について

・地域の祭りや伝統行事は、世代間交流や地域への愛着を育む貴重な機会であり、社会教育の観点からも重要な役割を果たしているとの意見があった。

・一方で、担い手不足や若い世代の参加の減少が課題となっていることから、こどもや保護者が主体的に関わることのできる仕組みや、世代交代を促す工夫について調査する必要があるとの意見があった。

●大人の学びについて

・災害・防災、デジタル、外国にルーツをもつ住民に関してなど、今回出された多くのテーマに共通する視点として、「大人の学び」の重要性が挙げられた。こどもだけでなく、地域や家庭を支える大人自身が学び続けることが重要との意見があった。

・特に子育て世代については、こどもを通じて地域とつながったり、新たな学びに参加したりする機会があることから、こどもを入口とした大人の学びの仕組みづくりについて検討してはどうかとの意見が出された。

(2) その他

委員長より、今後の進め方について説明があった。

4 その他

(1) 令和7年度社会教育関係団体の活動実績について

令和7年度社会教育関係団体の活動実績について、事務局から資料4により情報提供した。

5 閉会

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第4条及び第5条に基づき会議録を作成し、同要領第6条に基づき委員長及び会議録署名人が署名する。

令和 8 年 8 月 7 日

委員長（署名欄）

松本 大

署名委員（署名欄）

佐藤 直美

